

# 景 気 動 向 調 査

( 第 129 回 )

2003 年 1 月 ~ 3 月 期 実 績

2003 年 4 月 ~ 6 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

1. 実施時期            2003年3月下旬～2003年4月上旬
2. 調査対象期間       2003年1月～3月期実績  
                          2003年4月～6月期予測
3. 調査の方法         郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先             岩手県内企業 400社
5. 回答数             209通（回答率 52.25%）  
                          <内訳> 製造業 60社 建設業 56社 卸・小売業 93社
6. 調査の主要項目    (1) 業況について  
                          (2) 設備投資の動向について  
                          (3) 資金繰りの状況について  
                          (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

## ～ 県内景況感 3 期ぶりで上向きに ～

2003 年 1～3 月期の岩手県内企業の景況感 D I は、全体で 84.6 と前期 87.2 より 2.6 ポイントと僅かではあるが 3 期ぶりに上向きとなった。

前々回、前回と 2 期連続で景況感が下向き傾向で推移していたが、今回調査において上向きとなり、次期の見通しでも上向く見込みとなったことから、景況感については悪化傾向に歯止めがかかってきた。

項目別に前回調査時（2002 年 10～12 月期実績）と比較してみると、景況感については悪化傾向に歯止めがかかってきているものの、「売上高・出荷高」を始め「収益」も含めた業況に関する DI については引き続き下向きの傾向となっている。また、「設備投資」に関しては前回まで 3 期連続で上向いたものの、今回 4 期ぶりに下向きに転じている。資金繰り状況については今回調査において 3 期連続で下向きとなる厳しい実績となっている。

一方、国内経済全般をみると、設備投資等一部に持ち直しの動きもみられるものの、イラク情勢を含め先行き不透明感が強まる中で、全体として横這いの動きを続けている。消費者物価や企業向けサービス価格は、引き続き緩やかに下落しているなか、賃金が引き続き低下するなど、雇用者所得は減少を続けており、家計の雇用・所得環境は、全体として引き続き厳しい状況にある。政府・日本銀行は一体となって、金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指し、引き続き強力かつ総合的な取組を行うとしており、今後も政府の「改革加速のための総合対応策」等の効果に期待したい。

また、最近の岩手県内経済をみると、企業の生産活動が横這いで推移しているほか、厳しい雇用・所得環境を反映して個人消費を中心とする最終需要も引き続き低調に推移するなど、全体として厳しい状況が続いている。

### < 参考 >

#### 岩手県内企業「景況感 D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感 D I
1	第 124 回	01 年 10～12 月	91.2
2	第 109 回	98 年 1～3 月	90.6
3	第 111 回	98 年 7～9 月	90.0
4	第 108 回	97 年 10～12 月	89.7
5	第 110 回	98 年 4～6 月	89.3

(1971 (昭和 46) 年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のDIは、今回調査では 84.6 と前期比 2.6 ポイント上昇し 3 期ぶりに上向きとなった。

また、各業種別のDIをみると、建設業で 6.3 ポイント、製造業で 3.0 ポイント上昇し、卸・小売業で 1.1 ポイント低下した。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

製造業でやや上向いたものの、建設業で下向きに転じ、卸・小売業は 2 期連続下向き、全体でも 2 期連続で下向いた。

### (2) 生産高または仕入高

卸・小売業の仕入高、製造業の生産高ともに 2 期連続で下向きとなった。

### (3) 在庫

製品・商品の在庫は、製造業でふたたび上向きに転じ、卸・小売業も僅かながら上向きに転じた。

### (4) 収益

建設業でやや上向くものの、製造業、卸・小売業で 2 期連続下向き、全体でも引き続き下向いた。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 2 期連続で上向きとなり、仕入価格は 5 期連続で上向きとなった。

## 3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は 12.9% と、4 期ぶりに下向きに転じた。

なお、設備投資の目的をみると、「生産販売能力の増加」「生産・販売能力の維持更新」の割合が引続き高くなっている。

## 4. 資金繰り状況について

製造業でやや上向いたものの、建設業と卸・小売業で下向いたことから、全体では 3 期連続で下向きとなった。また、来期の見通しについては、建設業と卸・小売業で上向きの予想となっている。

## 5. 経営上の問題点について

上位の 4 項目、「売上・受注不振」「収益不振」「販売価格安」「過当競争」は変わっていない。

# 1. 県内景況感について

## ～ 3期ぶりに上向く～

[1～3月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が1.4%（前期0.4%）、「悪い」が86.0%（同 87.6%）で、DIは84.6（同 87.2）と、2.6ポイントと僅かではあるが3期ぶりに上向いた。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が79.6（同 82.6）、建設業が82.2（同 88.5）と上向きに転じ、卸・小売業が89.2（同 88.1）と引き続き下向いた。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が2.0%、「悪くなる」が79.6%であることから、DIは77.6となり、1～3月期実績と比較すると指標は7.0ポイント上向く。

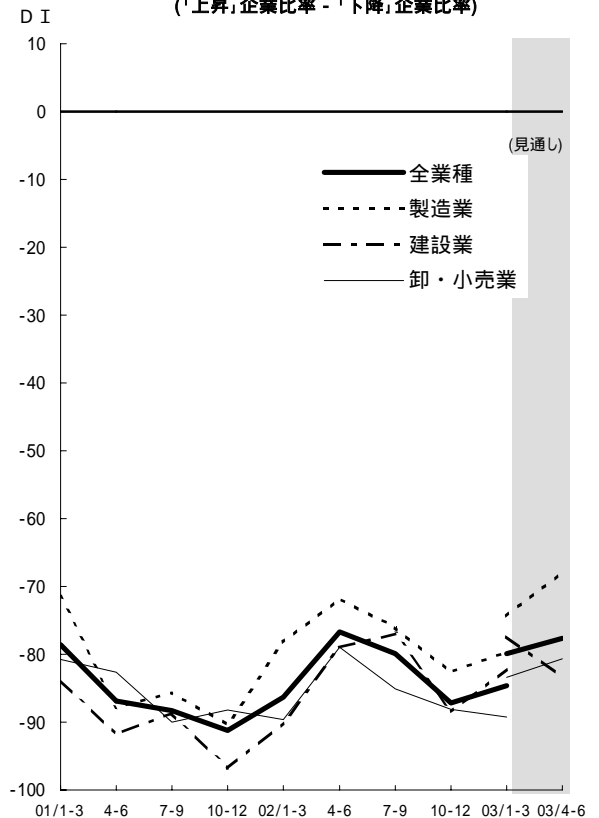
業種別にみると、製造業が67.8、建設業が83.3、卸・小売業が80.7となっており、1～3月期実績と比較して製造業、卸・小売業で上向くものの、建設業では下回る見込みとなる回答結果であった。

県内景況感(前年同期比)

		（％）					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	1～3月 (実績)	0.0	1.4	12.6	42.0	44.0	-84.6
	4～6月 (見通し)	0.0	2.0	18.4	45.3	34.3	-77.6
（製造業）	1～3月 (実績)	0.0	3.4	13.6	50.8	32.2	-79.6
	4～6月 (見通し)	0.0	3.4	25.4	44.1	27.1	-67.8
（建設業）	1～3月 (実績)	0.0	1.8	14.2	30.4	53.6	-82.2
	4～6月 (見通し)	0.0	1.9	12.9	38.9	46.3	-83.3
（卸・小売業）	1～3月 (実績)	0.0	0.0	10.8	43.5	45.7	-89.2
	4～6月 (見通し)	0.0	1.1	17.1	50.0	31.8	-80.7

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 製造業でやや上向く ～

[1～3月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.4%(前期 20.4%)、「減少」が65.2%(同 63.6%)となり、DIは49.8(同 43.2)と、2期連続で下向いた。

業種別にDIをみると、製造業 28.8(前期 33.3)、建設業 58.1(同 42.1)、卸・小売業 58.0(同 50.9)となった。製造業でやや上向いたものの、建設業で下向きに転じ卸・小売業では2期連続で下向いた。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が12.7%、「減少」が57.0%であることから、DIは44.3で、1～3月期実績と比較して若干上向く予想となっている。

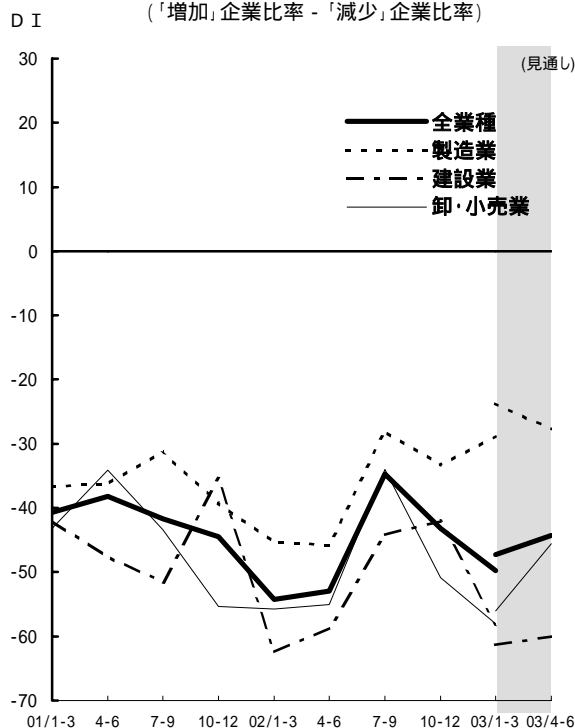
業種別にDIをみると、製造業で27.7、建設業で60.0、卸・小売業で45.6となっており1～3月期実績と比較して、卸・小売業で上向きに転じる見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(% )						DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少		
全業種	1～3月 (実績)	1.4	14.0	19.4	40.6	24.6	-49.8	
	4～6月 (見通し)	1.5	11.2	30.3	39.0	18.0	-44.3	
(製造業)	1～3月 (実績)	0.0	25.4	20.4	28.8	25.4	-28.8	
	4～6月 (見通し)	0.0	17.2	37.9	32.8	12.1	-27.7	
(建設業)	1～3月 (実績)	1.8	7.3	23.7	34.5	32.7	-58.1	
	4～6月 (見通し)	3.6	10.9	11.0	41.8	32.7	-60.0	
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	2.2	10.8	16.0	51.6	19.4	-58.0	
	4～6月 (見通し)	1.1	7.6	37.7	41.3	13.0	-45.6	

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業、卸・小売業ともに2期連続で下向く ～

[1～3月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が27.6%（前期26.3%）、「減少」が55.2%（同52.6%）で、DIは 27.6（同 26.3）と、若干下向いた。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は14.4%（前期14.6%）、「減少」が67.8%（同55.9%）で、DIは 53.4（同 41.3）と大きく下向きとなった。

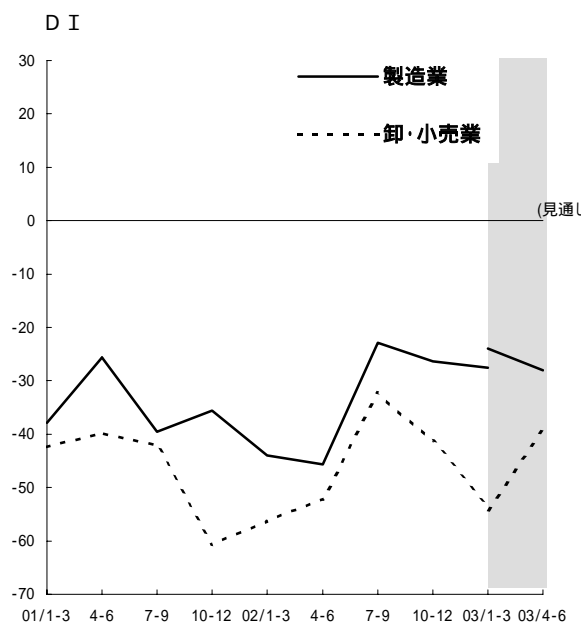
[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が15.8%、「減少」が43.8%であることから、DIは 28.0で、1～3月期実績と比較して、若干下向きとなる。

卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が 13.5%、「減少」が52.8%であることから、DIは 39.8となり、1～3月期実績と比較し大きく上向く見通しとなる。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
(製造業)	1～3月 (実績)	0.0	27.6	17.2	36.2	19.0	-27.6	
	4～6月 (見通し)	0.0	15.8	40.4	33.3	10.5	-28.0	
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	2.2	12.2	17.8	51.1	16.7	-53.4	
	4～6月 (見通し)	1.1	12.4	33.7	40.4	12.4	-39.3	

生産・仕入動向(前年同期比)  
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)





(3) 在庫

～ 製造業の製品在庫、卸小売業の商品在庫ともに上向く ～

[1～3月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は14.3%（前期10.4%）、「減少」が37.5%（同45.5%）であることから、DIは 23.2（同 35.1）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が4.1%（同13.6%）、「適正」が81.6%（同62.2%）、「不足」が14.3%（同24.2%）である。

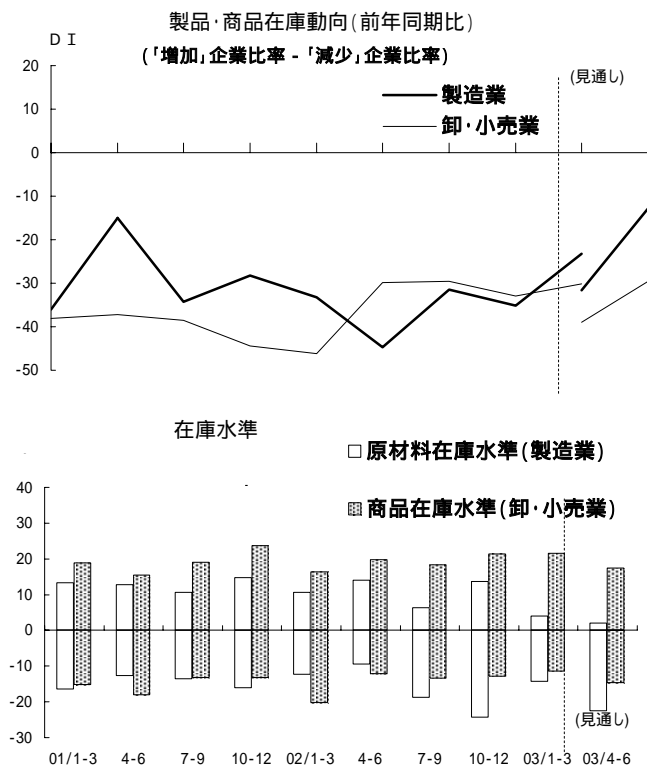
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が10.5%（前期9.0%）、「減少」40.7%（同42.0%）であることから、DIは 30.2（同 33.0）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が21.5%（同21.3%）、「適正」が67.1%（同65.9%）、「不足」が11.4%（同12.8%）である。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が12.7%、「減少」が 25.5%で、DIは 12.8となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が2.0%、「適正」が75.5%、「不足」が22.5%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が7.1%、「減少」が36.5%であることから、DIは 29.4となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が17.4%、「適正」が68.0%、「不足」が14.6%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
（製造業）	1～3月 （実績）	1.8	12.5	48.2	32.1	5.4	-23.2
	4～6月 （見通し）	1.8	10.9	61.8	20.0	5.5	-12.8
（卸・小売業）	1～3月 （実績）	1.2	9.3	48.8	31.4	9.3	-30.2
	4～6月 （見通し）	0.0	7.1	56.4	31.8	4.7	-29.4



(4) 収 益

～ 製造業、卸・小売業で2期連続下向く ～

[1～3月期の実績] 収益動向実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が13.2%(前期16.9%)、「減少」が66.1%(同64.3%)であり、DIは52.9(同47.4)となり、2期連続で下向いた。

業種別にDIをみると、製造業39.7(前期37.5)、建設業53.7(同59.0)、卸・小売業60.9(同47.2)となり、製造業、卸・小売業で2期連続下向いた。

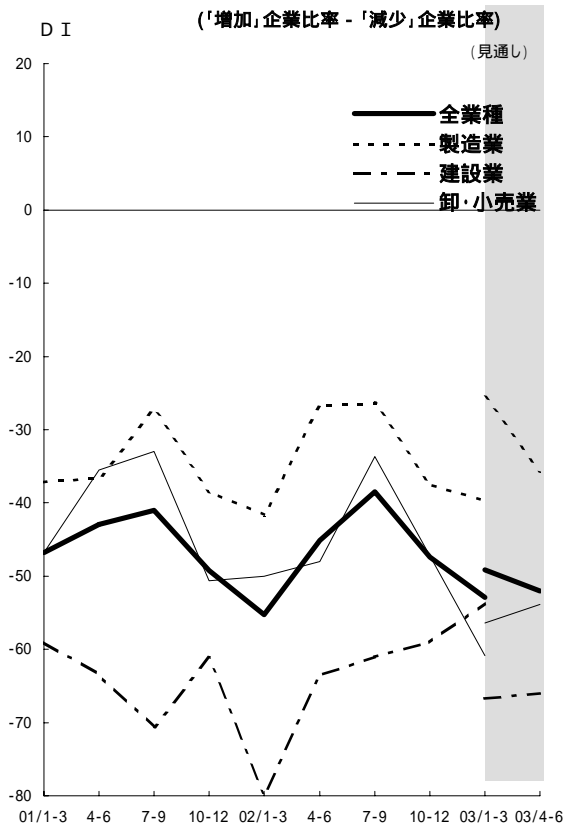
[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が10.5%、「減少」とみる企業が62.5%であることから、DIは52.0で、1～3月期実績と比較して若干上向く見通し。

業種別にDIをみると、製造業は35.7、建設業66.0、卸・小売業53.9であり、1～3月期実績と比較して、製造業、卸・小売業で上向く予想である。

収 益(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月(実績)	0.5	12.7	20.7	43.1	23.0	-52.9
	4～6月(見通し)	0.5	10.0	27.0	42.5	20.0	-52.0
(製造業)	1～3月(実績)	0.0	20.7	18.9	39.7	20.7	-39.7
	4～6月(見通し)	0.0	16.1	32.1	35.7	16.1	-35.7
(建設業)	1～3月(実績)	0.0	13.0	20.3	35.2	31.5	-53.7
	4～6月(見通し)	1.9	7.5	15.2	39.6	35.8	-66.0
(卸・小売業)	1～3月(実績)	1.1	7.6	21.7	50.0	19.6	-60.9
	4～6月(見通し)	0.0	7.7	30.7	48.4	13.2	-53.9

収益動向(前年同期比)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格4期連続で上向く ～

[1～3月期の実績] 販売価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が5.9%(前期4.5%)、「低下」が46.8%(同49.0%)であることから、DIは40.9(同44.5)と、2期連続で上向きとなった。

仕入価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が13.5%(前期10.2%)「低下」が25.5%(同24.9%)であることから、DIは12.0(同14.7)となり、5期連続で上向きとなった。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が6.5%、「低下」とみる企業が43.8%であることから、DIは37.3で、1～3月期実績と比較して上向きとなる。

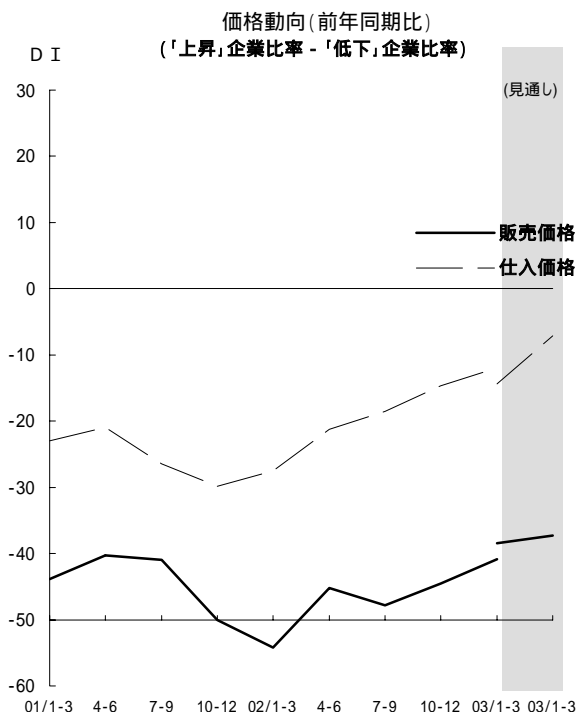
仕入価格については、「上昇」とみる企業が14.3%、「低下」とみる企業が21.4%であることから、DIは7.1で、1～3月期実績と比較して上向きとなる。

販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	1～3月 (実績)	0.5	5.4	47.3	35.0	11.8	-40.9
	4～6月 (見通し)	0.5	6.0	49.7	31.7	12.1	-37.3

仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	1～3月 (実績)	2.0	11.5	61.0	21.5	4.0	-12.0
	4～6月 (見通し)	1.5	12.8	64.3	16.8	4.6	-7.1



### 3.設備投資の動向について

#### (1)設備投資の実施状況

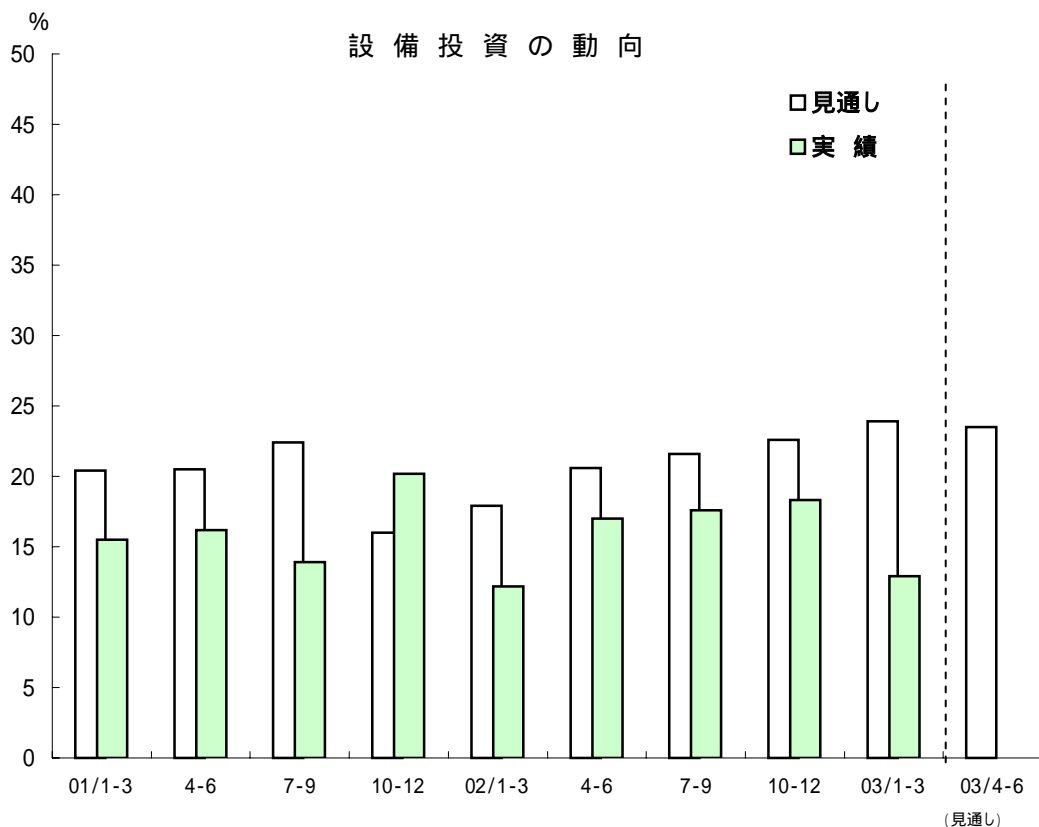
～4期ぶりに下向く～

〔1～3月期の実績〕 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は12.9%（前期18.3%）で、4期ぶりに下向いた。

これを業種別にみると、製造業が24.1%（前期28.4%）、建設業3.6%（同9.6%）、卸・小売業11.5%（同15.6%）と、全ての業種で下向いている。

〔4～6月期の見通し〕 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で13.0%（前期10.4%）、「計画はあるが具体化していない」は10.5%（同13.5%）、「計画はない」は76.5%（同81.7%）であった。「計画あり」は合計23.5%（同23.9%）とほぼ横這いであるものの、依然として低水準となっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で28.8%（前期34.6%）、建設業で14.6%（同12.9%）、卸・小売業で25.6%（同21.3%）と、建設業と卸・小売業で上向いている。



## (2) 設備投資の目的

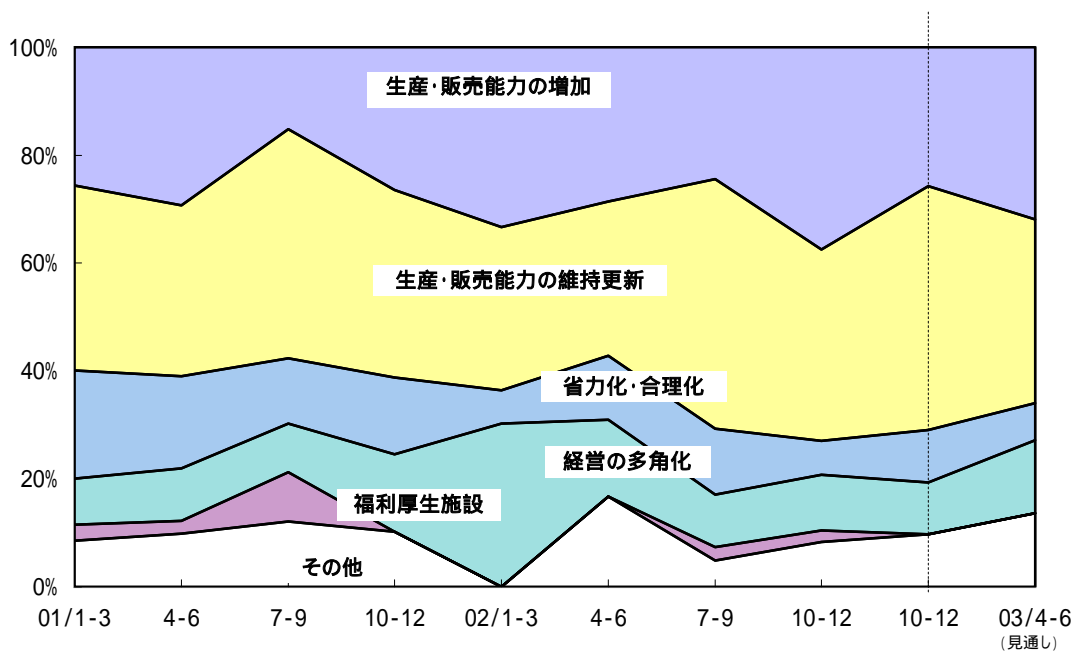
[1~3月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(12.9%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」45.2%(前期35.4%)がふたたびトップとなり、前回トップだった「生産・販売能力の増加」25.8%(前期37.5%)が続き、「経営の多角化」「省力化・合理化」「その他」が同率9.7%となっている。

業種別にみると、各業種とも「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっている。

[4~6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(23.5%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が45.2%(前期31.4%)と最も多く、以下、「生産・販売能力の増加」が31.8%(同29.4%)、「経営の多角化」13.6%(同15.7%)の順位となっている。

投資目的については、実績と同様全ての業種で「生産能力の維持更新」がトップとなっている。

設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

～ 3期連続で下向く ～

[1～3月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が7.3%(前期9.2%)、「苦しくなった」が46.4%(同45.0%)であることから、D Iは39.1%(同35.8)と3期連続で下向いた。

業種別にD Iをみると、製造業が27.6(前期31.2)、建設業が46.5(同35.5)、卸・小売業が41.9(同37.3)であり、建設業と卸・小売業は下向いたものの製造業が上向いた。

[4～6月期の見通し] 4～6月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が8.4%、「苦しくなる」が45.0%であることから、D Iは36.6となり、1～3月期実績(39.1)と比較してやや上向きとなる。

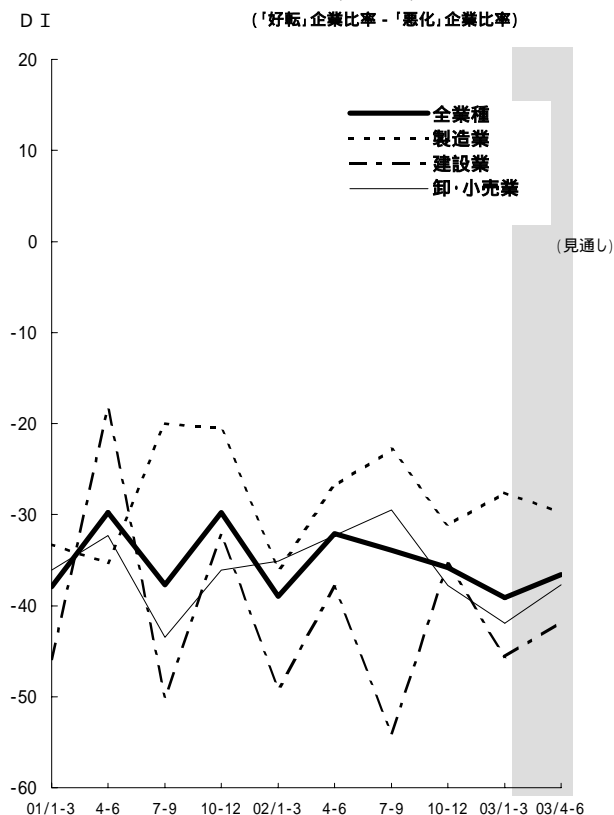
業種別にD Iをみると、製造業29.8、建設業41.8、卸・小売業37.7となっており、1～3月期実績と比較して、建設業と卸・小売業で改善することを予想している。

資金繰り(前期比)

		(%)						D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦		
全業種	1～3 (実績)	0.5	6.8	46.3	30.0	16.4	-39.1	
	4～6 (見通し)	0.0	8.4	46.6	29.7	15.3	-36.6	
(製造業)	1～3 (実績)	0.0	6.9	58.6	22.4	12.1	-27.6	
	4～6 (見通し)	0.0	5.3	59.6	22.8	12.3	-29.8	
(建設業)	1～3 (実績)	0.0	7.1	39.3	30.4	23.2	-46.5	
	4～6 (見通し)	0.0	14.5	29.2	32.7	23.6	-41.8	
(卸・小売業)	1～3 (実績)	1.1	6.5	42.9	34.4	15.1	-41.9	
	4～6 (見通し)	0.0	6.7	48.9	32.2	12.2	-37.7	

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率)



## (2) 現金・預金

[1~3月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が5.9%（前期7.9%）、「減少した」が55.6%（同48.2%）であることから、DIは49.7（同40.3）と、下向いた。

[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が7.6%、「減少する」が44.5%であることから、DIは36.9（当期49.7）で上向く予想となっている。

## (3) 金融機関借入

[1~3月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が14.6%（前期20.8%）、「減少した」が30.3%（同31.2%）であることから、DIは15.7%（同10.4%）と下向いた。

[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が15.6%、「減少する」が28.1%であることから、DIは12.5（当期15.7）と、やや上向く予想となっている。

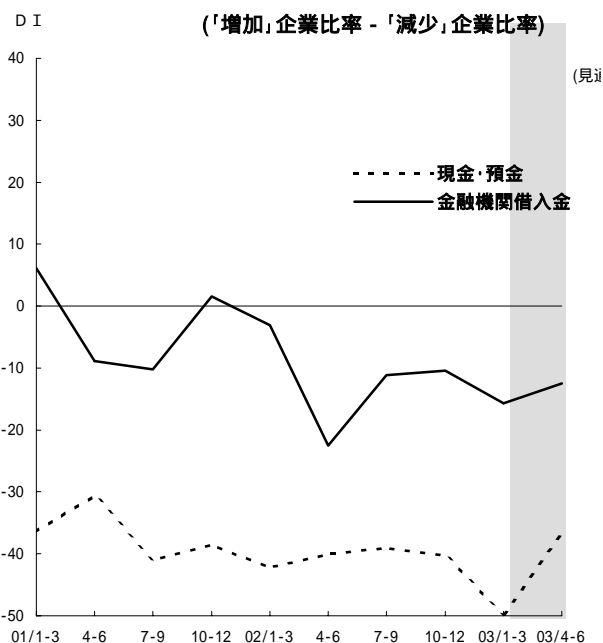
現金・預金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1~3 (実績)	0.0	5.9	38.5	37.1	18.5	-49.7
	4~6 (見通し)	0.5	7.1	47.9	27.3	17.2	-36.9

金融機関借入金(前期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1~3 (実績)	4.4	10.2	55.1	25.4	4.9	-15.7
	4~6 (見通し)	1.5	14.1	56.3	23.1	5.0	-12.5

現金・預金動向(前期比)  
金融機関借入金(前期比)



#### (4) 販売代金回収期間

〔1～3月期の実績〕 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が2.9%（前期4.0%）、「長くなった」が24.6%（同19.6%）であることから、D Iは 21.7（同 15.6）となった。また、72.5 %（同76.4%）の企業は「変わらない」としている。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.5%、「長くなる」が24.8%であることから、D Iは 22.3（当期 21.7）となる。また、72.7%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

〔1～3月期の実績〕 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が3.9%（前期4.0%）、「短くなった」が6.9 %（同6.4%）であることから、D Iは 3.0（同 2.4）となった。また、89.2%（同89.6%）の企業は「変わらない」としている。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が1.5%、「短くなる」が6.6%であることから、D Iは 5.1（当期 3.0）となる。また、91.9%の企業は「変わらない」とみている。

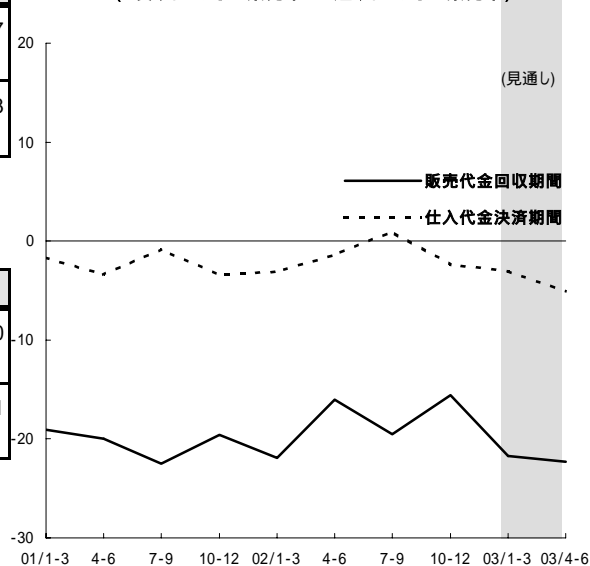
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					D I
期	短く	やや短	不変	やや長	長く		
全業種	1～3 （実績）	0.0	2.9	72.5	19.8	4.8	-21.7
	4～6 （見通し）	0.0	2.5	72.7	20.3	4.5	-22.3

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					D I
期	長く	やや長	不変	やや短	短く		
全業種	1～3 （実績）	0.0	3.9	89.2	4.4	2.5	-3.0
	4～6 （見通し）	0.0	1.5	91.9	5.6	1.0	-5.1

販売代金回収期間動向(前期比)  
 （「短くなった」企業比率 - 「長くなった」企業比率）  
 仕入代金決済期間動向(前期比)  
 （「長くなった」企業比率 - 「短くなった」企業比率）





## 5. 経営上の問題点について

～ 「売上・受注不振」 が依然トップ ～

1～3月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」37.5%（前期36.9%）、「収益不振」17.1%（同16.7%）、「過当競争」14.3%（同13.4%）、「販売価格安」10.7%（同15.1%）の順となり、「過当競争」と「販売価格」が順位を入れ替えたが、項目に変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」30.3%（前期34.0%）、「販売価格安」17.4%（同18.7%）「収益不振」13.8%（同16.7%）。建設業では「受注不振」45.5%（同41.3%）、「収益不振」20.0%（同24.0%）、「過当競争」19.1%（同19.8%）。卸・小売業では「売上不振」37.4%（同36.1%）、「収益不振」17.5%（同12.0%）、「過当競争」12.9%（同13.9%）となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「収益不振」「過当競争」「販売価格安」が上位を占めている。

